

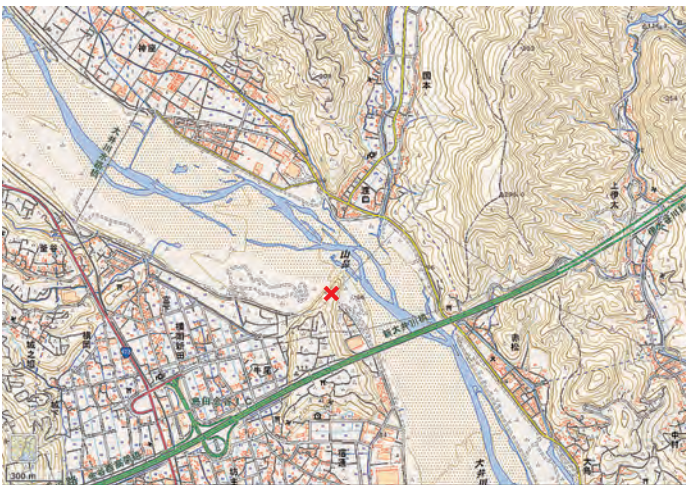
C026 瀬戸川層群の石灰質コンクリーション（島田市牛尾）（静岡県GEO DATA(18)：地学散歩(97)）

著者	佐藤 弘幸
雑誌名	静岡地学
巻	117
ページ	ii-ii
発行年	2018-06-15
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00026902

C026 瀬戸川層群の石灰質コンクリーション（島田市牛尾）



青木克顕会員提供



国土地理院 地図・空中写真閲覧サービスを加工

島田市牛尾にある瀬戸川層群（始新世～前期中新世）の露頭より大量のコンクリーションが産出した。産出層準は緑色岩を伴わない砕屑岩類よりなるメラングジュ相の泥質部である。コンクリーションの直径は数cm～数十cm，球状のものが多く非常に硬い。断面を観察すると，基質は細粒～中粒砂サイズで一部に泥岩クラストを含み岩相はタービダイト砂岩層に類似する。また，中心部に生痕のような白色部が観察されるものもある。密度は 2.6 g/cm^3 程度で，顕微鏡下では炭酸塩鉱物が石英，長石とともにみられ，石灰質コンクリーションに分類される。コンクリーションは堆積直後に形成され，後に構造変形を受けてメラングジュ中に定置したものと考えられる。

この露頭は河川改修工事により出現したもので，今後の工事の進捗によって露頭の形状やコンクリーションの産出状況は大きく変わるものと思われる。なお，観察には国土交通省静岡河川事務所の許可が必要である。（佐藤弘幸）